

科目名	外国語 Ⅲ						
科目名(英)	Foreign language Ⅲ						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	マックス・ゴンザレス トム・エモット		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 3年生						
授業概要	病院を受診・入院してきた患者への看護英会話(レベルアップ)2						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				Obstetrics & Gynecology における問診ができる。	
	○	○				Childhood Health Problems Word を使って問診ができる。	
	○	○				Vaccinations の英語がわかる。	
	○	○				Surgery における患者への説明ができる。	
	○	○				手術名と人体内部の器官名 の英語がわかる。	
	○	○				術後の状態を問診する英語がわかる。	
	○	○				薬の種類・用法などの英語がわかる。	
	○	○				心配事について尋ねることができる。	
	○	○				文化や宗教の違いについて尋ねることができる。	
テキスト・教材 参考図書	こころの看護英語物語 Challenge Book						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1				配布資料の事前通読		
	2	You're going to have a baby! (産婦人科)			配布資料の事前通読		
	3				配布資料の事前通読		
	4				配布資料の事前通読		
	5	My baby has a fever. (小児科/予防接種)			配布資料の事前通読		
	6				配布資料の事前通読		
	7				配布資料の事前通読		
	8				配布資料の事前通読		
	9	Your surgery will be tomorrow at 10 am. (手術)			配布資料の事前通読		
	10				配布資料の事前通読		
	11				配布資料の事前通読		
	12	How are you feeling? (術後/日常看護)			配布資料の事前通読		
	13				配布資料の事前通読		
	14	Are you worried about anything? (心のケア/文化や宗教の違い)			配布資料の事前通読		
15				配布資料の事前通読			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭試問と筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。 						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	口頭試問・筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	看護カウンセリング						
科目名(英)	Nursing counseling						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	河合愛実 和田花穂里		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 3年生						
授業概要	看護の基本となる技術における<人間関係成立の技術>で1年次の人間関係論を踏まえ、対象の把握および基本的医学知識・技術の習得とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				看護におけるカウンセリングの意義説明できる。	
	○	○				自己理解について説明できる。	
	○	○				交流分析理論(エゴグラム)を説明できる。	
	○	○				心理療法(コラージュ)の体験を通して、自分のこころに起こってきたことを大切にしたり、自分自身の感情に気づくことができる。	
	○	○				自分の特徴(関心・態度、考え方、行動など)を把握し、自己理解を深め、周囲と関わる際の態度について考えることができる。	
	○	○				ストレスについて理解を深める。ストレスにどのように気づくか、どのように対処するか説明できる。 各回の授業での疑問点・不確かな点を解決することができる。	
テキスト・教材 参考図書	ケアの質を高める看護カウンセリング						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	看護におけるカウンセリングの意義				講師配布資料	
	2						
	3	自己理解とは					
	4						
	5						
	6	交流分析理論(エゴグラム)					
	7						
	8	非言語的コミュニケーションによる演習					
	9						
	10	言語的コミュニケーションによる演習					
	11						
	12	スーパービジョン					
	13						
	14	構成的グループ・エンカウンター 看護場面の再構成による演習					
15							
評価方法	・2名の講師による筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		筆記試験(和田)	◎	◎			50%
		筆記試験(河合)	◎	◎			50%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	看護の統合と実践Ⅳ						
科目名(英)	Nursing Integration and Practice IV						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	山本勇也		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 3年生						
授業概要	30時間の講義・演習の後に臨地実習(統合分野)へと続ける。ここでは実際の臨床場面を想定し、より臨床に則した状況下での総合的な判断・対応を模擬体験する内容を中心とする。模擬体験後には、リフレクションを繰り返し経験により学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				看護の統合と実践Ⅳの位置づけについて説明できる。	
	○	○				臨床看護実践能力について説明できる。	
	○	○				複数事例を基に患者の多重課題・優先順位・時間配分を考慮した計画の立案ができる。	
	○	○				多重課題、時間配分、優先順位を考慮した計画を立案できる。	
	○	○		○		予定外の課題の場合、自己の判断による行動を試みることができる。	
	○	○		○		予定外の課題の場合、自己の考えを他者に報告・連絡・相談することができる。	
	○	○				患者の状態の優先性に気付くことができる。	
			○			看護師倫理に則して演習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	指定テキストなし。講師配布資料 全ての分野のテキストおよび、資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	統合分野、看護の統合と実践Ⅳの位置づけ			配布資料の事前通読		
	2	実践の看護業務実施における状況(多重課題、優先順位、時間配分、予定外の課題)			配布資料の事前通読		
	3	2事例を使った看護過程の展開			配布資料の事前通読		
	4				配布資料の事前通読		
	5				配布資料の事前通読		
	6				配布資料の事前通読		
	7				配布資料の事前通読		
	8				配布資料の事前通読		
	9	看護の統合と実践の経験:学内実習			配布資料の事前通読		
	10	様々な事例に対する臨床に即した状況で経験			配布資料の事前通読		
	11				配布資料の事前通読		
	12				配布資料の事前通読		
	13				配布資料の事前通読		
	14				配布資料の事前通読		
15				配布資料の事前通読			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技評価は、様々な事例に対する経験を通し形成評価を重ね合計80%とする。 ・評価:提出レポート内容(20%) ・成績評価基準は、A(91点以上)・B(81点以上)・C(71点以上)・D(61点以上)・E(59点以下)とする。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。 						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技評価			○	○		80%
	レポート評価	○	○				20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	関係法規						
科目名(英)	Related laws						
単位数	1単位	時間数	15	担当者	増満 誠		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 3年生						
授業概要	看護師が専門職業人としてその任務を果すためには、わが国の保健・医療・福祉に関する諸制度の概要を理解する必要がある。そこで保健師助産師看護師法をはじめ、衛生法規や社会保障に関する法規、労働関係法規等を重点的に学習させ、職務を正しく遂行するための基礎的知識を身につける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 法の概念、厚生行政のしくみについて説明できる。	
	○	○				2. 保健師助産師看護師法、医療法等について説明できる。	
	○	○				3. 医療法、健康増進法、母体保護法、母子保健法について説明できる。	
	○	○				4. 精神保健および精神障害者福祉に関する法律について説明できる。	
	○	○				5. 感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律、予防接種法等について説明できる。	
	○	○				6. 環境衛生関係の法律、薬事法、大麻取締法について説明できる。	
	○	○				7. 福祉関係法律(児童福祉法、生活保護法、障害者自立支援法)について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	ナーシンググラフィカ 関係法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	法の概念、厚生行政のしくみ				講師配布資料	
	2	医療法、健康増進法、母体保護法、母子保健法、精神保健および精神障害者福祉に関する法律					
	3	感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律、予防接種法等					
	4	環境衛生関係の法律、薬事法、大麻取締法					
	5	福祉関係法律(児童福祉法、生活保護法、障害者自立支援法)					
	6	保健師助産師看護師法、医療法等					
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	在宅看護論実習					
科目名(英)	Home nursing Practice					
単位数	2単位	時間数	90	担当者	臨床指導者・角 美緒	
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	看護科 3年生					
授業概要	地域や在宅で療養する対象を知るため、概論・方法論で学んだ知識を活用し、医療・保健・福祉の視点から学べるよう、さまざまな場所(市町村・ステーション・外来など)で実習をさせる。実習形態は在宅実習3週間のうち2週間は訪問看護ステーション、1週間は市町村保健センター・社会福祉協議会・在宅介護支援センターなどで実習する。さらに、1日外来実習(透析センター・ストーマ外来)にて実習し、在宅療養者に対する外来での関わりや看護も学ぶ。					
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	
	○	○				
	○	○	△			
				○	○	
	目標					
	1. 地域保健福祉活動を実践している機関の機能と役割を説明することができる。					
	2. 在宅で療養する人・生活自立が困難な人とその家族の生活上の問題を理解し、療養の各段階における看護援助方法(予防的かかわり、自立支援、終末期看護など)を説明することができる。					
	3. 看護師倫理に則して実習を行うことができる。					
テキスト・教材 参考図書	在宅に関する学習資料 実習要綱					
授業計画	週	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1 週間	個人および・家族・集団に対する健康上のものだいにかかわる専門機関の機能・役割			在宅看護論実習に必要な資料の振り返り	
		専門職の役割(地域保健福祉活動を通して)				
		地域における関係機関(病院・福祉事務所など)および他職種との連携・協働				
		在宅療養者とその家族を「生活者」としてとらえる				
		在宅療養者とその家族の療養上の問題				
		疾患や障害が対象に与える影響と予防的かかわり				
		訪問看護援助方法				
	社会資源の活用方法とケアマネジメントの重要性					
	2 週間	他職種との連携・協働				
環境	評価者:臨床指導者 評価割合:訪問看護ステーション(70%)、市町村(30%) 評価基準:5段階評価【認知・情意】(70%)、【態度】(30%) 100点満点とし、60点以上を合格点とする。 評価方法:記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	レポート・発言・行動	◎	◎	◎		70%
	態度				◎	30%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。					

科目名	在宅看護論方法Ⅱ						
科目名(英)	Home nursing theory Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	角 美緒		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 3年生						
授業概要	在宅で提供する看護を理解し、基礎的な技術を身につけ、在宅で生活する疾病や障害をもち療養する人、生活自立が困難で支援を必要とする人とその家族を理解し、在宅での看護の基礎を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				在宅における医療ケアの意義と目的(対象の特徴と自立支援)について説明できる。	
	○	○				在宅における医療ケアにおける観察とアセスメント(状態に合わせた対応、調整)について説明できる。	
	○	○				トータルや合併症の予防と対応を理解し、リスクマネジメントの重要性について説明できる。	
	○	○				在宅療養者の家族のセルフマネジメント力の維持・向上のための支援について説明できる。	
	○	○				在宅における医療ケアにおける多職種連携、社会資源の活用・調整について説明できる。	
			○				呼吸のアセスメントに基づいた適切で安全かつ有効な排痰ケアが実施できる。
		○				在宅酸素療法の管理方法について理解し、安全に実施できる。	
テキスト・教材 参考図書	在宅看護に関する資料 テキスト全て						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	在宅看護の実際「医療管理技術」「医療管理技術」在宅看護における対象者の把握				テキスト事前通読 適宜課題実施	
	2	在宅看護の実際 療養生活に応じた医療管理技術					
	3	在宅看護の実際 医療依存度の高い在宅療養者と家族に必要なアセスメント					
	4	在宅看護の実際 看護の基本原則(安全・安楽・自立・個別性)をふまえた技術					
	5	在宅看護の実際 社会資源の活用(人・物・サービス、医療保険、介護保険)					
	6	在宅看護の実際 在宅看護における教育(指導)・相談技術					
	7	在宅看護の実際 医療管理を行いながら生活する在宅療養者と家族への配慮					
	8	在宅看護の実際 【発表】在宅酸素療法、吸引(気管・口腔・鼻腔)					
	9	在宅看護の実際 【発表】人工呼吸器、膀胱内留置カテーテル法					
	10	在宅看護の実際 【発表】在宅経管栄養法、褥瘡管理					
	11	在宅看護の実際 【発表】中心静脈栄養、ストーマ ／在宅酸素療法について(講義)					
	12	学内演習(在宅酸素療法)					
	13	学内演習(経鼻経管栄養の挿入、吸引)					
	14	学内演習(経鼻経管栄養の挿入、吸引)					
15	まとめ・振り返り						
評価方法	・講義内容を筆記試験(100%)にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	在宅看護論方法Ⅲ						
科目名(英)	Home nursing theory Ⅲ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	角 美緒		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 3年生						
授業概要	ペーパーパシエントによる在宅看護過程の展開を学ぶ。終末期の成人期療養者の事例を通して、看護上の問題を中心として、在宅における予防的かわり、症状アセスメントの方法について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		1. 在宅看護介入時期別の特徴について説明できる。	
	○	○		○		2. 紙上事例を通して終末期(成人期)の療養者の看護過程を展開できる。	
	○	○		○		3. 様々な事例から、療養者と家族や、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際について説明できる。	
	○	○		○		4. 様々な事例から、療養者とその家族の生活上の課題を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	系統別看護学講座 統合分野 在宅看護論						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	在宅看護展開のポイント 在宅看護過程				テキスト事前通読 適宜課題実施	
	2	在宅看護の看護過程の展開Ⅰ_終末期事例(情報の理解、クラスタリング)					
	3	在宅看護の看護過程の展開Ⅰ_関連図					
	4	在宅看護の看護過程の展開Ⅰ_情報の分析・解釈					
	5	在宅看護の看護過程の展開Ⅰ_看護問題・優先順位、看護目標					
	6	在宅看護の看護過程の展開Ⅰ_看護計画					
	7	在宅看護の看護過程の展開Ⅱ_事例に対する看護過程の展開(基本情報(常在条件・基本的看護の構成要素・病理的状态))					
	8	在宅看護の看護過程の展開Ⅱ_事例に対する看護過程の展開(社会資源(介護保険・医療保険など))					
	9	在宅看護の看護過程の展開Ⅱ_事例に対する看護過程の展開(常在条件・基本的看護の構成要素・病理的状态の関連)					
	10	在宅看護の看護過程の展開Ⅱ_事例に対する看護過程の展開(看護問題:看護診断・看護目標・看護計画)					
	11	在宅看護の看護過程の展開Ⅱ_【全体共有】脳梗塞、パーキンソン					
	12	在宅看護の看護過程の展開Ⅱ_【全体共有】認知症、小児					
	13	在宅看護の看護過程の展開Ⅱ_【全体共有】ALS,COPD					
	14	在宅看護の看護過程の展開Ⅱ_【全体共有】独居、統合失調症					
	15	まとめ・振り返り					
評価方法	・グループワークにて作成した看護過程のレポート(30% *グループワーク中の態度含)、講義内容の筆記試験(70%)、合計100%にて評価する。 ・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	◎	◎		◎		30%
	筆記試験	◎	◎				70%
履修上の注意	出席時間が所定の3分の2に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	精神看護学実習						
科目名(英)	Psychiatric nursing practice						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	臨床指導者・上田 朋紀		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 3年生						
授業概要	精神障害を持つ対象の理解を深め、対象を取り巻く保健医療福祉チームの役割を学ぶ機会とした。精神障害を持つ対象との人間関係の構築のための治療的コミュニケーションを学び、また、対象との相互関係発展のため関係の振り返りが重要であることを理解し、振り返りにより対象理解・自己理解・相互関係の分析を学ぶ加えて、安全安楽な援助技術実施の機会とする。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 精神障害者及び家族への理解について説明できる。	
	○	○	○			2. 対象の発達段階、健康障害、ニードやセルフケア、健康な側面を分析しながら看護援助の実践ができる。	
	○	○				3. 患者—看護師関係の発展過程を理解し治療的かかわりの技法について説明できる。	
	○	○				4. 精神医療における看護の役割と、社会復帰に向けた保健医療福祉チームの連携の重要性を説明できる。	
			○	○		5. 看護師倫理に則して実習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	精神看護学の講義資料、学習資料 実習要綱						
授業計画	週	授業項目・内容				授業外学修指示	
	3 週 間	プロセスレコードを用いた対象との相互関係や関係発展過程の分析				精神看護学実習に必要な資料の振り返り	
		対象の病態・生活・人間像の情報収集の実施と記述					
		情報の分析から問題の成り行きと看護の方向性の記述					
		看護上の問題の判断と記述					
		問題の優先順位の判断と記述					
		看護計画の立案における目標の設定と具体策の記述					
		立案した看護計画に基づく援助の実施と評価の記述					
		精神症状の理解および精神科病棟管理、治療、検査等の把握					
		精神科デイケア、外来の見学					
精神科訪問看護の見学							
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価者: 指導教員と臨床指導者。 ・評価基準: 5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 ・評価方法: 記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。 						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・言動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎	◎	30%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	母性看護学実習						
科目名(英)	Maternity nursing practice						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	臨床指導者・浅見 詩織		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 3年生						
授業概要	母性看護学実習では、周産期における対象者や家族に必要な看護を実践できる基礎的能力を養うとともに、母性を取り巻く地域の保健・医療・福祉の諸機関との関係について理解を深め、保健指導の必要性を学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○			1. 周産期における対象の看護過程を展開することができる。	
	○	○	○	○		2. 対象者の援助に必要な看護技術を習得し、安全・安楽に配慮し実施することができる。	
	○	○				3. 母性看護および対象者のセルフケア能力を高めるための保健指導について説明することができる。	
	○	○				4. 継続看護の必要性と母子保健医療チームの看護者の役割を説明することができる。	
	○	○				5. 生命の尊厳、親役割を獲得していく過程に関わり、母性看護の意義について考えを述べることができる。	
			○			6. 看護師倫理に則して実習を行うことが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	母性看護学の講義資料 その他、母性に関する学習資料 実習要綱						
授業計画	週	授業項目・内容				授業外学修指示	
	3 週間	妊娠期のアセスメントと看護				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		産褥期のアセスメントと看護					
		産婦のアセスメントと看護					
		新生児のアセスメントと看護					
		セルフケア能力を促進させる看護実践及び保健指導 (育児技術・分娩準備・日常生活・母子保健サービスなど)					
		母子保健・子育て支援に関する施策の活用					
		他職種・他機関との連携 (社会福祉士・薬剤師・医師・栄養士・小児科・市役所など)					
		病院から地域への継続看護					
		周産期医療システム					
		分娩見学					
		母親役割獲得過程					
		愛着形成・母子相互作用・母子の早期接触					
不妊外来							
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価者: 指導教員と臨床指導者。 ・評価基準: 5段階評価 【認知・情意】(70%) 【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 ・評価方法: 記録用紙・発問・発言、行動観察法とする。 						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・言動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎		30%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	老年看護学実習Ⅱ						
科目名(英)	Gerontological nursing Practice Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	臨床指導者 田中 美香		
実施年度	2019年度	実施時期	前期～後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 3年生						
授業概要	高齢者と健康障害をもつ高齢者の特徴および高齢社会における看護の果たす役割を理解し、老年看護に必要な知識・技術・態度を習得する。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. さまざまな健康状態にある高齢者の、生活機能と生活行動について説明できる。	
	○	○				2. さまざまな健康状態にある高齢者が、その人らしく望ましい生活を送るための援助について説明できる。	
	○	○	○			3. さまざまな健康状態にある高齢者の、生活機能の問題(課題)に対する強みを活かした看護の実施できる。	
	○	○				4. さまざまな健康状態にある高齢者の、家族支援や多職種連携の必要性、エンドオブライフケアについて説明できる。	
				○		5. 高齢者の意思・尊厳を尊重する倫理的態度で実習を行い、自己の老年看護観を述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 ・老年看護学Ⅰ・Ⅱの講義資料、その他老年看護や病態に関する資料、配布資料						
授業計画	週	授業項目・内容			授業外学修指示		
	3 週間	さまざまな健康状態にある高齢者の、生活機能と生活行動の分析			老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習		
		さまざまな健康状態にある高齢者の、その人らしく望ましい生活					
		さまざまな健康状態にある高齢者の、生活機能の問題(課題)					
		さまざまな健康状態にある高齢者が、その人らしく望ましい生活を送るための援助					
		さまざまな健康状態にある高齢者の、生活機能の問題(課題)に対する強みを活かした看護の実施					
		さまざまな健康状態にある高齢者の、エンド・オブ・ライフ・ケア					
		さまざまな健康状態にある高齢者の、家族に必要な支援					
		さまざまな健康状態にある高齢者の、望む生活に向けた多職種連携・チームアプローチ					
		老年看護の役割と、自己の老年看護観					
評価方法	評価者:指導教員と臨床指導者 評価基準:5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 評価方法:記録用紙、発問・発言、行動観察法						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習記録用紙、発言・行動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎		30%
履修上の注意	・出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						